

2016年度 事業報告書

2016年4月 1日から
2017年3月31日まで

公益財団法人 国際文化会館

項目	頁
1. 組織体制	1
2. 募金活動	3
3. 総務関係事項	4
4. 施設管理	4
5. 会員関係	4
6. プログラム活動	9
7. 国際文化会館の運営	31

I. 組織体制

A. 理事会・評議員会

2016 年度中に開催された理事会・評議員会は、以下の通りである。

第 1 回理事会	2016 年 5 月 26 日開催
第 2 回理事会	2016 年 6 月 21 日開催
第 3 回理事会	2016 年 11 月 22 日開催（書面表決）
第 4 回理事会	2017 年 3 月 15 日開催
臨時評議員会	2016 年 5 月 9 日開催（書面表決）
第 2 回臨時評議員会	2016 年 6 月 17 日開催（書面表決）
定時評議員会	2016 年 6 月 21 日開催
第 3 回臨時評議員会	2016 年 12 月 2 日開催（書面表決）

B. 理事・監事・評議員

2016 年度中の理事・監事・評議員の異動は、以下の通りである。

【評議員】（全て 6 月 21 日付）

（重任）	阿川尚之	ディビッド・バスカビル
	モンテ・カセム	行天豊雄
	チャールズ・レイク	松本 大
	村上陽一郎	渋谷雅英
	添谷芳秀	高原明生
	竹中千春	渡辺 靖
	吉澤建治	
（新任）	アン・ブラッドフォード・ケーリ	
	池田祐久	小林いずみ
	近藤正晃ジェームス	小川 忠
	吉本光宏	
（退任）	グレン・エス・フクシマ*	北垣宗治*
	南條史生*	大宮 正*
	佐多保彦	手納美枝*

*同日付顧問に就任

【監 事】(全て 6 月 21 日付)

(重任) 宮尾舜助 豊松秀巳

【理 事】

(重任：6 月 21 日付)

明石 康	千野境子
降旗高司郎	後藤乾一
原田明夫	五百旗頭 真
小林正美	国分良成
小松諄悦	久保文明

(新任：6 月 28 日付)

番場孝司

(退任：6 月 21 日付)

別府恵子* 中里健一*

*同日付顧問に就任

【代表理事】(全て 6 月 21 日付)

(重任) 明石 康 (理事長)

降旗高司郎 (常務理事)

(退任) 中里健一 (常務理事)

【業務執行理事】(6 月 28 日付)

(新任) 番場孝司

2016 年度末現在の役員数は、理事 12 名、監事 2 名、評議員 19 名である。

C. 委員会

2016 年度中に設置された委員会および委員は、以下の通りである。

【会員制度検討委員会】(2017 年 3 月 15 日付)

理事長：明石 康

評議員：アン・ブラッドフォード・ケーリ、近藤正晃ジェームス
添谷芳秀

理 事：千野境子、後藤乾一、久保文明

【六本木五丁目西地区市街地再開発検討委員会】（2017年3月15日付）

理事長：明石 康

評議員：池田祐久、松本 大、竹中千春、吉澤建治

理 事：小林正美、国分良成

外部専門家：田村誠邦／(株)アークブレイン代表

升田 純／顧問弁護士

D. 職員数

2016年度中、新規の採用者および退職者のいずれも無く、2016年度末現在の職員数は15名（男性4名、女性11名）である。

II. 募金活動

A. 助成金・寄付金

2016年度中に領収した各種助成金・寄付金の主たるものは、以下の通りである。

国際交流基金	21, 571千円（千円未満四捨五入）
日米国際金融シンポジウム	14, 300
ハーバード・ロースクール	10, 290
日米友好基金	5, 856
MRAハウス	3, 000
渋沢栄一記念財団	1, 200
(株)森ビル	500
米国大使館	319
霞会館	300
清水建設(株)	300
(株)天童木工	300
(株)西原衛生工業所	50
入会時寄付金	12, 950
諸寄附	7, 760

III. 総務関係事項

A. 六本木5丁目西地区市街地再開発準備組合

地区住民・地権者の協議機関である「六本木5丁目西地区市街地再開発準備組合」(2008年設立)に会館も参加し、この地区のより良い街づくりについて話し合っている。2014年7月に基本計画改良案が策定され、これに基づき事業が進められていたが、震災復興やオリンピック特需などによる建設コスト増加の影響により、施設計画の変更が検討され、今秋に向けて新たな基本計画案の策定が進んでいる。

IV. 施設管理

麻布消防署より、これまでの会館の防火管理業務協力における功労が認められ、11月14日に「東京消防庁・予防部長感謝状」および「麻布消防署・署長感謝状」を受章した。

V. 会員関係

A. 個人会員

2016年度は、新規入会が115名(日本人94名、日本人以外21名)あり、昨年度比4名増加(日本人13名増、日本人以外9名減)した。退会届提出、死亡、会費滞納による退会者は118名(日本人82名、日本人以外36名)で、昨年度比24名減少(日本人13名減、日本人以外11名減)した。これにより全体として3名の会員数の減少(日本人12名増、日本人以外15名減)となり、2017年3月31日現在、日本人会員2,058名と日本人以外39カ国(地域)の会員834名の合計は2,892名となった。

	日本人	日本人以外	小計	合計
新入会員	94 (82%)	21 (18%)		115 (100%)
退会	36	11	47(40%)	
死亡	34	11	45 (38%)	
会費滞納	12	14	26 (22%)	
小計	82 (67%)	36 (33%)		118 (100%)
増減	+12	-15		-3

B. 法人会員

2016年度の新規入会は8法人8口で、昨年度比3法人2口増となった。一方9法人10口の退会及び減口があり、昨年度比2法人3口増となった。これにより法人会員数は昨年度比1法人2口減少し、2017年3月31日現在、合計175法人204口となった。

	法人数	口数	昨年度比
4口 "	2	8	0
3口 "	3	9	0
2口 "	17	34	-1 (-2口)
1口 "	153	153	0
計	175	204	-1 (-2口)

C. 優待会員

優待会員は会員の種類から廃止されているため、現会員の離任による後任の登録はない。2017年3月31日現在、優待会員は1名となっている。

D. 図書会員

新規入会者は33名、退会者は37名で、2017年3月31日現在、図書会員は15カ国131名となった。

E. 総収入

2016年度の図書会費を含む会費収入は、¥63,762,474で、昨年度比¥1,025,802減少し、また入会時寄付金収入は¥12,950,000で、昨年度比¥1,750,000増加した。法人会費収入は¥35,025,440で、昨年度比¥307,680増加した。

	2016年実績	予算	2015年実績
個人会員費	¥63,762,474	¥65,000,000	¥64,788,276
入会時寄付金	12,950,000	10,000,000	11,200,000
法人会員費	35,025,440	35,000,000	34,717,760
合計	<u>¥111,737,914</u>	<u>¥111,000,000</u>	<u>¥110,706,036</u>

F. 会員晩餐会

2016 年度は、12 月 5 日に特別ゲストとして歌舞伎俳優の松本幸四郎丈をお招きし、「歌舞伎とブロードウェイ」と題して日本人として初めてブロードウェイで主演された際の興味深いお話を伺った。当日は 99 名の会員が集い、交歓のひとつときをお楽しみいただいた。

G. 新入会員懇談会

2016 年度の新入会員懇談会は、7 月 20 日に樺山・松本ルームで開催され、36 名の新入会員および同伴者が出席した。

H. 「国際文化会館の庭―作庭家 重森千青氏と歩く」

2017 年 3 月 10 日に会館の庭園をご案内する催しを開催し、現在庭園を監修する重森千青氏に、会館の庭園とその手入れについてお話を伺った。当日は 20 名の会員が集い、庭園の散策と併せてお楽しみいただいた。

個人会員国籍別統計

(2017年3月31日現在)

国籍／地域	計 2016年 3月31日	新入会員 (+)	退会 (-)	死亡 (-)	会費滞納 (-)	計 2017年 3月31日
オーストラリア	26	1	0	0	0	27
オーストリア	4	0	0	0	0	4
ベルギー	4	0	0	0	0	4
ブラジル	1	0	0	0	0	1
カナダ	33	1	0	2	0	32
中華人民共和国	3	0	0	0	0	3
チェコ	0	0	0	0	0	1 *
デンマーク	2	0	0	0	0	2
エクアドル	1	0	0	0	0	1
フィンランド	3	0	0	0	0	3
フランス	11	0	0	0	0	11
ドイツ	30	1	2	0	0	29
香港	1	1	0	0	0	2
ハンガリー	1	0	0	0	0	1
インド	9	1	0	0	1	9
インドネシア	3	0	0	0	0	3
アイルランド	6	0	0	0	0	6
イスラエル	2	0	0	0	0	2
イタリア	6	1	0	0	1	6
日本	2,046	94	36	34	12	2,058
ケニア	1	0	0	0	0	1
韓国	18	3	0	0	2	19
マレーシア	4	0	0	0	0	4
ネパール	1	0	0	0	0	1
オランダ	6	1	0	0	0	7
ニュージーランド	2	0	0	0	0	2
フィリピン	4	0	1	0	0	3
ポルトガル	1	0	0	0	0	1
ロシア	1	0	0	0	0	1
シンガポール	5	0	0	0	0	5
スペイン	1	0	0	0	0	1
スウェーデン	12	0	1	0	1	10
スイス	6	0	0	0	1	5
台湾	3	0	0	0	0	3
タイ	10	0	0	0	0	10
トルコ	4	0	0	0	0	4
イギリス	55	1	1	1	1	53
アメリカ	568	10	6	8	7	556 *
ベトナム	1	0	0	0	0	1
日本人	2,046	94	36	34	12	2,058
日本人以外	849	21	11	11	14	834
合計	2,895	115	47	45	26	2,892

*国籍変更:USA→Czech

法人会員分布
(2017年3月31日現在)

県／国	4口	3口	2口	1口	法人数	口数
千葉			1	0	1	2
東京	2	2	15	129	148	173
神奈川				1	1	1
富山				1	1	1
石川				1	1	1
滋賀				1	1	1
愛知				1	1	1
大阪		1	1	3	5	8
岡山				1	1	1
広島				1	1	1
福岡				1	1	1
茨城				1	1	1
ドイツ				2	2	2
香港				1	1	1
オランダ				1	1	1
イギリス				1	1	1
アメリカ				7	7	7
合計						
法人数	2	3	17	153	175	
口数	8	9	34	153		204

VI. プログラム活動

I. 知的対話プログラム

1. アジア・リーダーシップ・フェロー・プログラム (ALFP)

1996年度以来、国際交流基金との共催事業として実施してきたアジア・リーダーシップ・フェロー・プログラム (ALFP) は、2016年度で21年目を迎えた。ALFPでは、毎年アジア各国から7～8名のパブリック・インテレクチュアルを選抜し、フェローとして2カ月間日本に招聘している。滞日中フェローたちは、国際文化会館で寝食を共にしながら、アジア地域や世界に共通する諸課題について議論する。こうした知的対話を通じてALFPは、地域内ならびにトランスナショナルな理解と協力を促進し、アジアのパブリック・インテレクチュアルおよび日本のカウンターパートとの緊密なネットワーク構築を目指している。2016年度は、7名のフェローを招聘した。現在までに、学術、ジャーナリズム、出版、法律、教育、芸術、NGO（非政府組織）、NPO（非営利組織）など、さまざまな専門領域のフェロー124名が選ばれている。

2016年度は、「Seeking Our Commons in Asia: How Can We Create Visions for the Future?」という共通テーマのもと、フェローたちは9月5日から10月28日まで主として国際文化会館に滞在し、日本を拠点とする学者、ジャーナリスト、芸術家、NGO／NPOリーダーたちとのワークショップ、リソース・セミナー、フィールド・トリップに参加した。プログラムの最後には公開報告会を開催し、共同作業の成果を交えながら、それぞれの専門テーマや国の現状について発表した。

2016年度に来日した7名のフェローとプログラム概要は、以下の通りである。

藤岡恵美子／特定非営利活動法人ふくしま地球市民発信所事務局長
(日本)

アムラン・ホセイン／ダッカ大学政治学部准教授
(バングラデシュ)

イ・テホ 李泰鎬／参与連帯 (PSPD) 政策委員会委員長
(韓国)

ファン・ゴック・ジエム・ハン／レインボー・メディア&エンターテイメント
CEO
(ベトナム)

クマール・スングラム／核軍縮平和連合 (CNDP) 上席研究員
(インド)

クリセルダ・ヤベス／ライター、フリージャーナリスト
(フィリピン)

アヤン・ウトリザ・ヤキン／国立イスラム大学ジャカルタ校講師、ナフダト
ウル・ウラマー中央指導部モスク対策副議長
(インドネシア)

[ワークショップ]

フェローによるカントリー・レポート (1) (9月6日)

フェローによるカントリー・レポート (2) (9月7日)

フェローによるカントリー・レポート (3) (9月8日)

原発事故後の福島に関するワークショップ 藤岡恵美子 (9月23日)

ベトナムの歴史ドラマ制作に関するワークショップ ファン・ゴック・ジエム・ハン (10月7日)

[リソース・セミナー]

「5 年後：福島原発事故後の原子力政策」鈴木達治郎／長崎大学核兵器廃絶
研究センター長、教授 (9 月 9 日)

北東アジア・コアセミナー 添谷芳秀／慶應義塾大学教授 (9 月 13 日)

「ウーマノミクス：多様性が経済にもたらすインパクト」キャシー松井／
ゴールドマン・サックス証券副会長 (9 月 14 日)

南アジア・コアセミナー「グローバル化するインドとアジアにおける構造変
容：持続可能、包括的、平和的な開発」田辺明生／東京大学教授 (9 月 16 日)

東南アジア・コアセミナー「東南アジアの価値：近代と伝統の間で」加藤久
典／中央大学教授 (9 月 20 日)

「記憶と忘却」アンベス・R・オカンポ／アテネオ・デ・マニラ大学准教授、
2014 年度 ALFP フェロー (9 月 21 日)

宗教間対話について 松山大耕／臨済宗妙心寺退蔵院副住職 (10 月 1 日)

新渡戸国際塾塾生およびモーリーン・アンド・マイク・マンスフィールド財
団フェローとのディスカッション (10 月 15 日)

「不安定性、政治の危機と新たな社会運動：福島原発事故後の新たな社会運
動」小熊英二／慶應義塾大学教授 (10 月 17 日)

[沖縄フィールド・トリップ] (9月26日～30日)

平和問題について

- 沖縄県営平和祈念公園および沖縄県平和祈念資料館訪問
- 佐喜真美術館見学および佐喜真道夫館長からのお話

名桜大学でのセミナー

沖縄の文化、価値観、教育、米軍基地問題等に関するセミナー

- 幸喜良秀／国立劇場おきなわ前芸術監督
- 山里勝己／名桜大学学長
- 高嶺 司／名桜大学教授
- 与那覇恵子／名桜大学教授

沖縄の自然と文化の保全について

- 国立劇場おきなわ見学および沖縄伝統芸能の継承に関するセミナー
嘉数道彦／国立劇場おきなわ芸術監督
- 沖縄美ら海水族館見学およびサンゴ礁の保全と環境教育における水族館の役割に関するセミナー 野中正法／沖縄美ら海水族館魚類チームリーダー
- 首里城公園見学

竹富島訪問

- NPOたきどうんにて竹富島の概要に関する説明
- 上勢頭立人氏（喜宝院蒐集館）の案内による竹富島集落散策
- 社会変化と観光ブーム下での伝統文化の継承に関するセミナー
上勢頭 篤／竹富公民館長

[その他の訪問先]

- 防衛大学校
- 朝日新聞東京本社、NHK

[ディスカッション・ペーパー発表会議]（9月11日～12日）

フェローが、自身の専門分野や出身国の現状について発表し、日本の有識者と議論を交わす会議を、逗子で開催した。参加者は、以下の通りである。

今田克司／日本NPOセンター常務理事

金 敬黙／早稲田大学教授

水野孝昭／神田外語大学教授

高原明生／東京大学教授

2. 牛場記念フェローシップ

現代の複雑化した国際情勢を読み解き、時代の一步先を見据える世界的なオ

ピニオン・リーダーを招聘し、グローバル社会が直面する諸課題について意見交換を行うことにより、日本と諸外国との相互理解の増進を試みるプログラム。滞日中のフェローは、公開講演会と専門家を中心としたセミナー、ワークショップなどに講師として参加するほか、各フェローの希望に応じて非公式な対談やディスカッションの機会を設定する。なお本フェローシップは、牛場信彦記念財団の残余財産の寄贈を受けて実施している。

2016年度は、2014年度に選出された、ターリク・ラマダーン(Tariq Ramadan)氏（オクスフォード大学教授）を9月9日より9日間招聘した。ラマダーン氏は滞日中、国際文化会館での講演のほか、日本学術振興会科学研究費基盤研究「イスラーム・ジェンダー学の構築のための基礎的総合的研究」（代表：東京大学 長沢栄治）との共催のワークショップにて講演を行い、東京および京都にて宗教間対話についての懇談会に参加した。また、NHK、テレビ東京、朝日新聞社、岩波書店の取材を受け、各媒体にてその内容が掲載された。

開催日	タイトル	講師など
9月14日	国際文化会館主催講演会 「共に生き、共に創る未来」	講演者：ターリク・ラマダーン 司会：飯塚正人／東京外国語大学アジア・アフリカ語研究所所長
9月16日	イスラーム・ジェンダー学国際ワークショップ ターリク・ラマダーン氏を迎えて	講師：ターリク・ラマダーン ディスカッサント：岡 真理／京都大学、 鵜戸 聡／鹿児島大学

3. 日印対話プログラム Japan-India Distinguished Visitors Program

日印平和条約の締結から60周年を迎えた2012年に、日印両国間に民間レベルの「対話の場」を創出するため、新たな人物招聘事業「Japan-India Distinguished Visitors Program」を国際交流基金との共催で立ち上げた。本プログラムは、社会のさまざまな課題の解決に向けて、現状を打破するための新しい価値やアイデアを提案している、インド国内で影響力のある人物を、政治、経済、文化、学術、科学など幅広い分野から年間1名、一週間程度日本に招聘する。招聘フェローは、講演会、関連機関の訪問、地方視察などを通して日本の関係者と意見交換やネットワーク構築を行う。

2016年度は、4人目のフェローとして、世界30カ国以上で事業展開するインドのピラマル・グループの旗艦企業ピラマル・エンタープライズ副社長で、Business Today 誌の「インドでもっともパワフルな女性25人」に8年にわたり選出されているスワティ・ピラマル氏を招聘した。ピラマル氏は、8月26日から9月2日に来日し、滞在中は国際文化会館での講演のほか、日本のジャー

ナリストや女性リーダー、有識者との対話などに参加した。

開催日	テーマ	講師など
9月1日	インドの新たな挑戦 ー医薬技術が社会を変える	スワティ・ピラマル（ピラマル・エンタ ープライズ副社長） コメンテーター&モデレーター：竹中 千春（立教大学法学部教授）

4. 日米国際金融シンポジウム（ハーバード・ロースクール）

国際文化会館はハーバード・ロースクール国際金融システム・プログラム（PIFS）との共催で、日米国際金融シンポジウムを実施している。本シンポジウムは、毎年、日米交互で開催され、日米両国の政府高官、政治家、金融機関幹部、法律家、コンサルタント、研究者、メディア代表者など 100 名以上が参加し、2 日間にわたって国際金融システムの機能と安定化にかかわる問題について討議を行う。

第 19 回シンポジウムは、10 月 28 日～30 日、長野県軽井沢町で開催し、日米から 135 名が参加、以下の 3 つのテーマについて討議した。

- 金融システムは再び崩壊の危機に直面するかー震源地は欧州、新興国、あるいは中国？
- 日米における金融政策の効果と限界と副作用
- 米大統領選の結果の日米関係への影響

II. 人材育成プログラム

1. 新渡戸国際塾

新渡戸国際塾は、企業、NGO／NPO、官公庁、研究機関などの若手社員・職員を対象に、国内外の国際的な現場で活躍できる人材の育成を目的に、2008 年度から実施しているもので、2016 年度に第九期を迎えた。塾長は明石康（国際文化会館理事長）、コーディネーターは渡辺靖氏（慶應義塾大学SFC教授）。6 月から12 月まで全14 回のセッションを行った。

第九期には、書類選考（願書・小論文）と面接を経て、官公庁、企業（商社、メーカー、コンサルなど）、在京大使館、メディアおよび人道支援団体などから 14 名の塾生（平均年齢 32.2 歳）が選抜された（第一期から第九期までの累計は 127 名）。全 14 回のセッションのうち 5 回は一般公開した。

本プログラムは、公益財団法人渋沢栄一記念財団と、一般財団法人 MRA ハウ

スの助成を受けて実施している。

2016 年度のカリキュラムは、以下の通りである。

回	日時	テーマ	講師など
第 1 回	6 月 18 日	開講式 オリエンテーション	明石 康／塾長 渡辺 靖／コーディネーター、慶應義塾大学 SFC 教授
第 2 回	7 月 2 日	「激動のアジアに見る日米関係」	ロバート・M・オアー／戦略国際問題研究所[CSIS]アジア太平洋部門理事、前アジア開発銀行米国大使
第 3 回	7 月 9 日～ 10 日(伊勢志摩)	「ポストサミットについて」 「伊勢神宮について」 「海女文化について」	鈴木英敬／三重県知事 石垣仁久／神宮司庁広報室課長 濱口花雪／海女 ほか6名 小濱 学／三重県社会教育・文化財保護課
第 4 回	7 月 23 日	「日本経済立て直し—真の立役者『文化』」	デービッド・アトキンソン／株式会社小西美術工藝社代表取締役社長
第 5 回	8 月 6 日	「突破する力」	岩瀬大輔／ライフネット生命保険株式会社代表取締役社長兼 COO
第 6 回	8 月 20 日	特別プログラム 2004 年 ALFP フェローとの対話	キンレイ・ドルジ／ジャーナリスト、情報通信省次官
第 7 回	9 月 3 日	「渋沢栄一 愛と勇氣と資本主義～未来を拓く経営思想～」	渋澤 健／コモンズ投信株式会社取締役会長、公益財団法人渋沢栄一記念財団業務執行理事
第 8 回	9 月 24 日 ～ 25 日	「私たちが描く 2030 年のシナリオ」	渡辺 靖／慶應義塾大学 SFC 教授 千野境子／産経新聞客員論説委員
第 9 回	10 月 1 日	「共生—和の世界を求めて」	松山大耕／臨済宗妙心寺退蔵院副住職

第10回	10月15日	「Shaping Mirai TOKYO: The lifestyles of Tokyoites twenty years into the future (2035)」	ALFP フェローおよびマンスフィ ールドフェローとの対話
第11回	10月29日	「能の身体性とその 本質」	梅若猶彦／観世流能楽師
第12回	11月12日	塾長との討議	明石 康／塾長
第13回	11月26日	「柔道の国際化から 考えるリーダーシッ プとチームワーク」	山口 香／ソウル五輪女子柔道銅メダ リスト、筑波大学大学院体育系准教授
第14回	12月3日	修了式	明石 康／塾長 渡辺 靖／慶應義塾大学 SFC 教授 佐藤孝義／MRA ハウス理事長

2. 日米芸術家交換プログラム（共催：日米友好基金）

米国の芸術家5名（5組）が来日し、3～5カ月間、日本の文化・芸術を研究し、創作活動を行ったり、日本の芸術家と交流を深めたりするプログラムで、日米友好基金（Japan-United States Friendship Commission）が主催し、国際文化会館は来日中のフェローの活動支援を受託している。1978年より実施され、専門スタッフが来日時のオリエンテーションや住居の手配、日本人芸術家や関連団体などへの紹介、情報の提供や通訳など、フェローの活動全般をサポートしている。

2016年度に来日したアーティストは、以下の通りである。

ラターシャ・N・ネヴァダ・ディグズ LaTasha N. Nevada Diggs（詩人）（5月より3カ月）

アレックス・ドッジ Alex Dodge（美術作家）（10月より3カ月半）

グレアム・コルビーンス Graham Kolbeins（映画監督）（4月より5カ月）

マークサーチ（ブルース・ダグラス、スー・マーク） Bruce Douglas, Sue Mark [marksearch]（美術作家）（5月より5カ月）

パイパー・シェパード Piper Shepard（美術作家）（5月より3カ月）

また、来日中の米国人芸術家の活動や、彼らと日本人芸術家がコラボレーションする際の発表の場として、「IHJ アーティスト・フォーラム（略称 AF）」（助成：日米友好基金）を不定期に開催している。2016 年度に開催したアーティスト・フォーラムは、以下の通りである。

開催日	タイトル	出演者・講師など
5 月 10 日	ワークインプログレス上映 &トーク「クイアー・ジャパン プロジェクト」	スピーカー：グレアム・コルベインズ トークゲスト：ヴィヴィアン佐藤（美術家・映画評論家・ドラッグクイーン） 通訳およびトークゲスト：飯田ひろみ（プロデューサー）
6 月 7 日	アーティスト・トーク「パイパー・シェパードのテキスタイル・アート」	スピーカー：パイパー・シェパード
6 月 8 日	ワークショップ「透かし模様：パイパー・シェパードとのコラボラティブ・ワークショップ」	講師：パイパー・シェパード
7 月 7 日	詩の朗読とヴォーカル・パフォーマンス「ツナメルト・サンドとその他の音の寓話」	出演：ラターシャ・N・ネヴァダ・ディグス、 ゲスト奏者：松田 愛（和太鼓）
9 月 29 日	アーティスト・トーク「なぞる と 発見」	スピーカー：マークサーチ（スー・マーク & ブルース・ダグラス） モデレーター：林 暁甫（NPO inVisible マネージング・ディレクター）
9 月 30 日	ワークショップ「でも、それってアートなの？」	講師：マークサーチ（スー・マーク & ブルース・ダグラス） ゲスト・アーティスト：中森あかね（彗星倶楽部[金沢]）
12 月 8 日	アーティスト・トーク「ノイズからシグナルへ」	スピーカー：アレックス・ドッジ

12月26日	展示「アレックス・ドッジ オープンスタジオ」	会場：代官山ヒルサイドテラスE棟ロビー
--------	------------------------	---------------------

III. パブリック・プログラム

1. アイハウス・パブリック・プログラム

(1) アイハウス・ランチタイム・レクチャー

本プログラムは、各分野の第一線で活躍中の専門家を講師に迎え、タイムリーなテーマについて、わかりやすく解説する時事講演会である。

2016年度は、以下の2回の講演会を開催した。2017年度以降は「アイハウス・レクチャー」に変更となる。

開催日	テーマ	講師
5月20日	フランスの移民政策の背景と今～日本が学ぶべきこと	渡邊啓貴／東京外国語大学大学院教授
2017年 2月8日	分裂するアメリカとトランプ 新大統領の誕生	会田弘継／青山学院大学教授

(2) 日本理解プログラム

① japan@ihj

「日本理解の促進」を共通項に開催する講演会で、国際文化会館がこれまで築いてきたアカデミズム、ジャーナリズム、アート、ビジネスなどにおける内外の専門家の協力のもとに実施している。いずれの講演も、基本的には通訳をつけずに英語で行うことが特徴となっている。

2016年度は、以下の1回の講演会を開催した。

開催日	テーマ	講師など
7月11日	築地 一ひとつの時代の 終わり？	テオドル・C・ベスター／ハーバード大学社会文化人類学教授、同大学ライシャワー日本研究所所長 手島麻依子／松竹株式会社、『TSUKIJI WONDERLAND』プロデューサー 奥田一葉／『TSUKIJI WONDERLAND』プロデューサー

② アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター・レクチャー・シリーズ

本シリーズは、日本研究者の研究成果を一般の方々に広く公開し、また、将来の日本研究者とすでに活躍中の日本研究者とのネットワーキングを図ることを目的に、2014年度よりアメリカ・カナダ大学連合日本研究センター（以下IUC）、国際文化会館、日本財団の共催事業として実施している。IUCは主に北米の大学生・大学院生を対象に、中・上級日本語の集中教育を行う日本語教育・研究機関であり、卒業生の多くが日本に関わる幅広い分野で研究者、政府関係者、実業家などとして活躍している。こうした卒業生を講師に迎え、年2回実施。用語は日本語。2016年度は、以下の2回の講演会を開催した。

開催日	テーマ	講師
5月11日	日本人は特殊か？国際比較で見る日本の貯蓄率と遺産動機	チャールズ・ユウジ・ホリオカ（アジア成長研究所主席研究員）
2017年 3月2日	「連濁」に見る日本語の奥行き	ティモシー・J・バンス／国立国語研究所教授

③ 日文研・アイハウス連携フォーラム

京都を拠点に、日本の文化・歴史を国際的な連携・協力の下で研究するとともに、外国の日本研究者を支援している国際日本文化研究センター（日文研）と国際文化会館の共同プログラムとして2014年度に新たに立ち上げた。年4回程度、日文研の専任・客員研究員を講師とした講演会を会館で実施することにより、日本研究の最前線を紹介し、日本理解の促進を目指している。

2016年度は、京都での初めてのフォーラムの開催を含め以下の4回の講演会を開催した。

開催日	テーマ	講師
7月27日	川端康成文学と中国美術	周 閲／日文研外国人研究員、北京語言大学教授
10月14日	海賊史観からみた世界史500年—『文明の海洋史観』の裏面を覗く	稲賀繁美／日文研副所長・教授 コメンテーター：鞍田崇／明治大学教授

2017 年 1 月 20 日	志賀直哉の文学—外国語 からの養分	郭 南燕／日文研教授 コメンテーター：都甲幸治／早稲田大学 教授
2017 年 3 月 5 日	ヴィジュアル資料が映し出 す—帝国期日本の文化と社 会（京都にて開催）	ケネス・ルオフ／ポートランド州立大学 教授 劉 建輝／日文研副所長・教授 コメンテーター：バーバラ・ハートリー ／日文研外国人研究員、タスマニア大学 講師 司会：佐野真由子／日文研准教授

④ Delve into Japanese Culture @ I-House

本プログラムは、日本文化（日本庭園、歌舞伎、和食など）についてさまざ
まな切り口からの講座を行うことで、外国人宿泊者や海外から会館を訪れる方
に日本文化に対する理解を深めていただくと同時に、広く日本人の方にも来館
いただくことを目的に2014年に開始したプログラム。日本文化を英語で紹介す
る講座として、東京を拠点に訪日や滞日外国人向けに日本語や日本文化講座を
開催している(有)Kisako Intercultural Instituteとの共催で実施している。共催
は2016年度をもって終了し、2017年度以降は会館主催プログラムとなる。

2016年度は、以下の4 回の講演会を開催した。

開催日	テーマ	講師
4 月 15 日	<i>WASHI: Ancient and Modern Wonder Material</i> 和紙：その古くも 新しい魅力	ポール・デンホード／和紙専門 家、亜細亜大学講師
12 月 9 日	<i>Reading Haiku Beyond Borders</i> 国境を越えて俳句を楽しむ	アビゲール・フリードマン／俳 人、The Wisteria Group CEO
2017 年 1 月 11 日	<i>The Art of Ukiyo-e and the Pleasures and Pitfalls of Collecting Them</i> 浮世絵の世界—収集の愉しみ と落とし穴	クリス・ウーレンベック／日本博 物館シーボルトハウス・キュレー ター、日本版画ディーラー
2017 年 3 月 9 日	<i>Introducing KYOGEN by Shigeyama Doji</i> 茂山童司が語る、狂 言の楽しみ	茂山童司／大蔵流狂言方

(3)その他

① 建築プログラム—Architalk!

日本近代建築の三大巨匠によって設計されたアイハウスには、創立当初から現在まで日本の建築界を牽引してきた建築家や建築関係者が会員として多数在籍しており、また海外からの建築関係者の来館も多い。これらのネットワークを活かし、会館の建物の再生が行われてから10年が経った2016年に、内外で活躍する建築家を招き、建築を通して現代世界について考えるためのプログラムを開始した。本プログラムでは、講演会終了後に懇親会を開催し、参加者が講師と、また参加者同士が懇談する機会を設けている。

2016年度は、小林正美氏（明治大学副学長）、藤村龍至氏（東京藝術大学准教授）をコーディネーターに迎え、以下の3回のプログラムを開催した（2017年4月10日の藤本氏講演会は2016年度の事業として実施）。また、日本建築学会、日本建築家協会の後援、森ビル(株)、清水建設(株)、(株)天童木工、(株)西原衛生工業所からの協賛を得て実施した。

開催日	テーマ	講師
4月21日	森の時代	隈 研吾（建築家）
12月13日	Another Utopia	槇 文彦（建築家）
2017年 4月10日	都市、姿、風景、パブリックスペース、 多様なスケール、あり方、関わり方	藤本壮介（建築家）

2. 特別プログラム

(1) 『Paper Lanterns』日本プレミア上映会&トーク

この映画は、原爆の犠牲となった12名の米兵の足跡を40年以上にわたって丹念にたどってきた広島在住の歴史家、森重昭氏のドキュメンタリーである。戦後70年の節目にあたり、モーリーン・アンド・マイク・マンズフィールド財団およびボストン・ジャパン・ソサエティとの共催で実施した。今回の日本初上映にあわせ、上映後には関係者によるトークセッションも行なった。大変多くの申込みがあり、同日に追加上映の回を設けた。なお、本プログラムは、駐日米国大使館から助成を得て実施した。

開催日	タイトル	登壇者
4月12日	『Paper Lanterns』日本プレミア上映会&トーク	森 重昭（歴史家） バリー・フレシェット（映画監督） ピーター・グリーリ（プロデューサー） チャッド・キャノン（作曲家） 藤澤麻衣（歌手）

3. 出版

(1) 公益信託長銀国際ライブラリー

2000年7月に設置された、「公益信託長銀国際ライブラリー基金」（前身である長銀国際ライブラリー財団の残余財産を基金として事業を継承）による事業である。政治・経済・社会・文化などの日本人著作を毎年2冊選定し、英訳・刊行して広く内外に配布し、国際社会の中での日本理解の増進に資することを目的としている。

2016年度の事業内容は以下の通りである。

【刊行・配布】

内外の大学図書館、研究機関、公共図書館、文化施設など、海外2,800カ所、国内700カ所への無償配布を実施した。

長銀国際ライブラリー叢書 No. 38

熊谷奈緒子著 『慰安婦問題』（筑摩書房、2014年刊）

The Comfort Women: Historical, Political, Legal, and Moral Perspectives

by Kumagai Naoko

翻訳者: David Noble

長銀国際ライブラリー叢書 No. 39

佐藤弘夫著 『ヒトガミ信仰の系譜』（岩田書院、2012年刊）

How Like A God: Deification in Japanese Religion by Sato Hiroo

翻訳者: David Noble

【英訳・編集】

長銀国際ライブラリー叢書 No. 10

川勝平太著『日本文明と近代西洋:「鎖国」再考』(日本放送出版協会、1991年刊)を全面改編して刊行。

The Lancashire Cotton Industry and Its Rivals [tentative] by Kawakatsu Heita

翻訳兼編集者: Jean Connell Hoff

(注)本書は、旧長銀国際ライブラリー財団が刊行を決定し、著者との間に出版の合意がなされていたが、同財団の解散(2000年)に際して、同事業の継承先を国際文化会館に決定し、同事業の仕掛品であった本書の刊行・配布をその費用とともに、国際文化会館へ委託されたものである。

長銀国際ライブラリー叢書 No. 40

小熊英二著『生きて帰ってきた男: ある日本兵の戦争と戦後』(岩波書店、2015年刊)

Survivor: A Japanese Soldier's Journey Through War and Peace
(tentative)

by Oguma Eiji

翻訳者: David Noble

現在編集作業中のこの2冊の刊行・配布を持って、長銀国際ライブラリー事業は、終了する。

(2) アイハウス・プレス

2006年度より、出版メディアを通して、①国際文化会館のプログラム活動の成果を広く一般に発信するとともに、②海外における日本理解の増進を目的として、日本人による名著を英訳・刊行して発信する活動を実施している。

2016年度は、新規の刊行は行わず、既刊の販売を引き続き行った。

(3) 定期・不定期刊行物

2016年度は、年4回発行の広報誌 *I-House Quarterly* (A4版/16ページ、和英併記)を10~13号まで発行し、各界で活躍する方へのインタビューや対談記事、実施済み講演のレポート、今後のプログラム、施設イベントなどを紹介した。会館を知らない層、とりわけ国際問題や文化交流に関心のある30~40代にリーチすべく、各国際機関やメディアなど通常の配布ルート以外に、関連イベントなどでも積極的に配布した。通常の発行部数は6,500部。なお、これまで会員向

けに『国際文化会館会報』および『*IHJ Bulletin*』で掲載してきた講演録は、会員専用のウェブサイトへ移行し、継続的に掲載している。

また、各年度の事業内容をまとめた年次報告書（『国際文化会館の歩み』、*Annual Report*）を会員および関係機関に配布した。

2016年度の刊行物は、以下の通りである。

- A) 英文年次報告書 *Annual Report 61* (2015 年度事業報告、9 月発行)
- B) 和文年次報告書 『国際文化会館の歩み 61』 (2015 年度事業報告、9 月発行)
- C) *I-House Quarterly*
 - No. 10, Summer 2016 (2016年6月発行)
 - ・インタビュー：本田孝一（アラビア書道家）
 - ・エッセー：ダイアン・ダーストン（ポートランド日本庭園学芸部長）ほか
 - No. 11, Fall 2016 (2016年9月発行)
 - ・インタビュー：岡田利規（演劇作家）
 - ・エッセー：アンベス・オカンポ（アテネオ・デ・マニラ大学准教授）ほか
 - No. 12, Winter 2017 (2016年12月発行)
 - ・インタビュー：国谷裕子（キャスター）
 - ・エッセー：渋谷雅英（渋谷栄一記念財団理事長）ほか
 - No. 13, Spring 2017 (2017年3月発行)
 - ・インタビュー：アビゲール・フリードマン（元米国外交官）
 - ・エッセー：藤原帰一（東京大学教授）ほか

IV. 調査研究プロジェクト

1. 外交問題夕食懇談会

外交問題に関心の深い人々に参加いただき、毎回ゲストを迎え、インフォーマルな雰囲気の中で懇談を深めるもの。調査研究プロジェクトとして行っており、得られた成果を他のプログラムの参考にするため、参加者は、学者・研究者、外交実務経験者、NPO、シンクタンク、メディア、経済人など、職種や専門を超えて、異なる分野から少人数に限定している。使用言語は日本語または英語。

2016 年度は、以下の懇談会を開催した。

開催日	テーマ	講師
9 月 6 日	国連と日本が直面するチャレンジの数々	吉川元偉／前・国際連合日本政府代表部常駐代表
10 月 14 日	2016 年アメリカ大統領選挙と日米関係	グレン・S・フクシマ／米国先端政策研究所上級研究員
2017 年 1 月 19 日	PKO と日本	宮島昭夫／内閣府国際平和協力本部事務局局長

V. 図書室

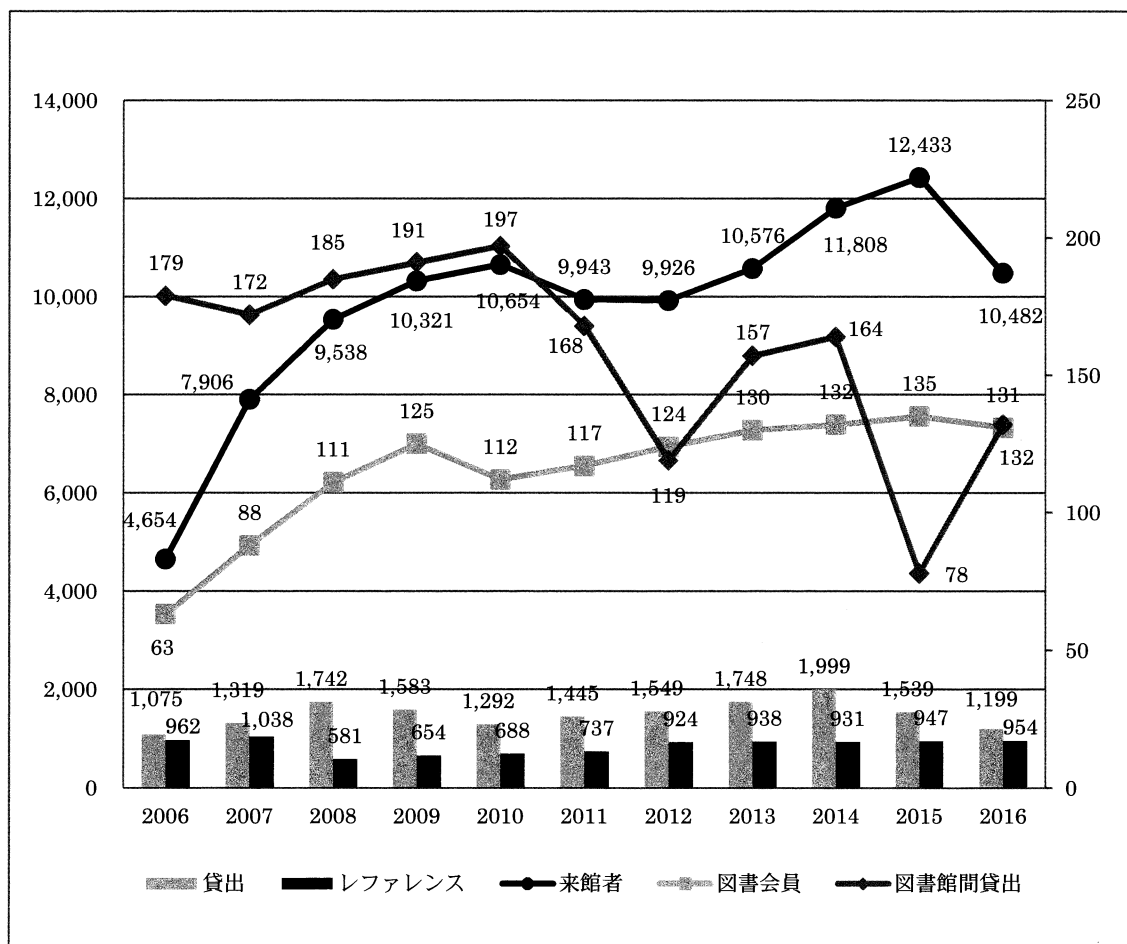
1. アーカイブ化準備

会館には写真、事務文書、各種の記録など、戦後の文化交流史を語る一次資料が未整理のまま保管されている。これらの資料の活用を可能にし、総合的な基礎目録をインターネット上で公開することを目的として、3カ年計画（2017～2019年度）でアーカイブ事業を実施予定である。その準備段階として、2016年度は計画の策定、助成金の申請、専門家などへの意見聴取を行った。

2. 通常業務

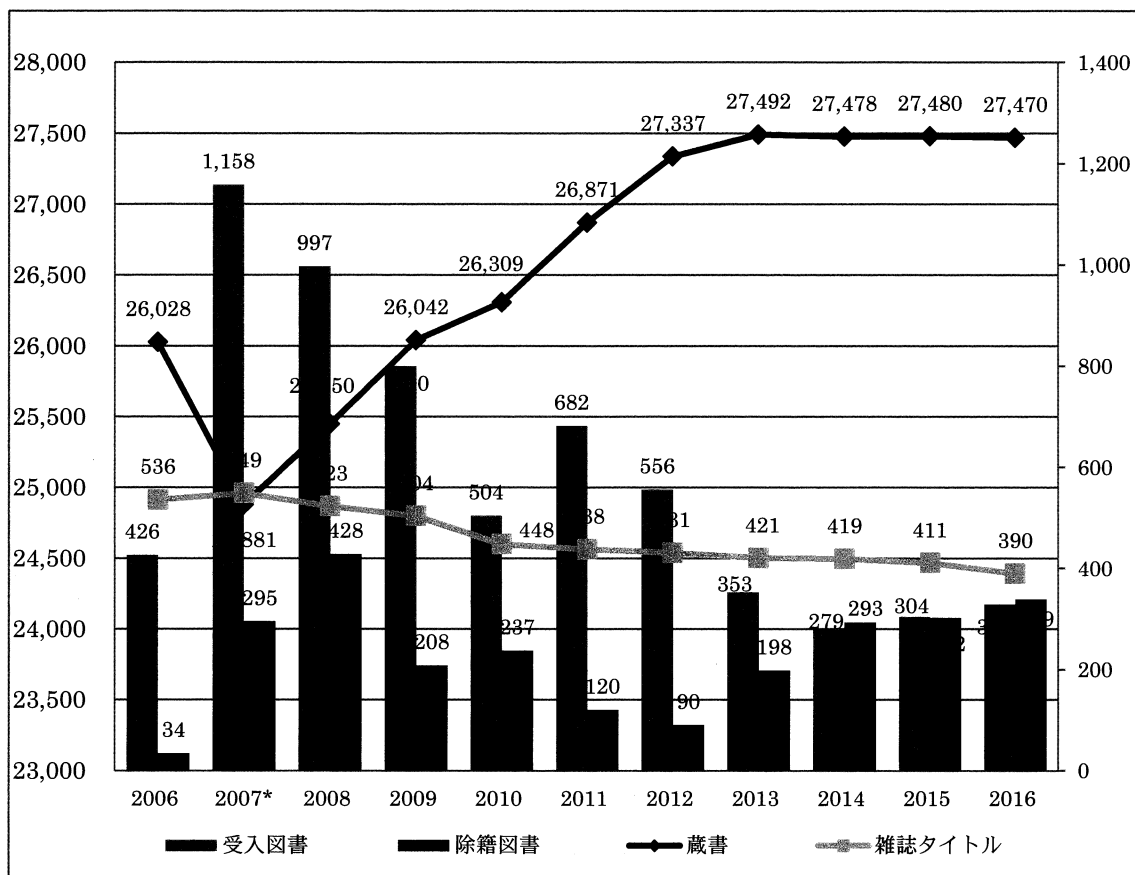
(1) 図書室サービス 2006-2016

前年度と比較して来館者数が減少したが、図書館間貸出は増加した。



(2) 蔵書管理 2006-2016

2014 年度、2015 年度に引き続き除籍冊数を増加した。



* 2007 年度以降は、図書館システムの LIMEDIO により蔵書数を集計している。

3. その他

(1) Reading about Japan at I-House Library

図書室蔵書の朗読と解説を行い参加者が自由にスピーカーと対話し、交流する機会を作ることを目指して、年に数回リーディングセッションを開催している。各回多くの参加があり、図書室広報の役目を果たしている。

2016年度は、以下の3回の懇談会を開催した。

開催日	タイトル	朗読者など
4月14日	John C. Weber talks about his collection from <i>A New Yorker's View of the World: The John C. Weber Collection</i>	ジョン・C・ウェバー（日本美術収集家）
10月25日	I-House members and others read <i>The Dreaming of the Bones</i> by W. B. Yeats, featuring the Noh play <i>Nishikigi</i> , in a session arranged by Ogoura Kazuo	モデレーター：小倉和夫（青山学院大学教授、国際交流基金上席顧問） コメンテーター：松村賢一（中央大学名誉教授） 能楽師： 寺井栄（観世流シテ方） 寺井千景（観世流シテ方） 寺井美喜（観世流シテ方） 役者： ティモシー・ハリス（役者、放送大学講師） ダレン・クレイグ（日本外国語専門学校教員、元大和日英基金スコラー） タニア・コーク（女優、舞台芸術ディレクター） マイケル・リース（声優）
2017年 3月8日	Itoh Keiko talks about <i>Japanese in Britain, 1863-2001: A Photographic Exhibition</i>	伊藤 恵子（作家・通訳）

(2) 書籍小展示（共催：日仏会館図書室、ドイツ - 日本研究所図書室）

本小展示は日仏会館図書室、ドイツ - 日本研究所図書室と共催で行ったもので、同じテーマについて会館では英語の資料、日仏会館ではフランス語の資料、ドイツ - 日本研究所図書室ではドイツ語の資料を展示した。

開催日	タイトル	展示資料
9月1日 ～ 9月30日	没・100年 夏目漱石	夏目漱石に関する英語資料（I-House） 夏目漱石に関する仏語資料 （日仏会館） 夏目漱石に関するドイツ語資料（ドイツ - 日本研究所）
2017年 3月1日 ～ 4月7日	幕末の日本	幕末の日本に関する英語資料（I-House） 幕末の日本に関する仏語資料 （日仏会館） 幕末の日本に関するドイツ語資料（ドイツ - 日本研究所）

(3) 団体功績表彰の受賞

図書室は、専門図書館協議会の平成28年度総会・表彰式（6月23日開催）において、団体功績表彰を受賞した。

VI. 協力・後援事業

2016年度、国際文化会館は以下の事業への協力・後援を行った。

【協力】

国際会議「The Culture Factor：グローバルな経営とリーダーシップにおける文化の要素」（5月20日）

主催：ホフステッド・センター、イティム・インターナショナル、サイコム・ブレインズ株式会社

会場：国際文化会館

公開フォーラム「国際社会におけるリスクの多様化と安全保障・外交の新次元—The Shifting Dynamics of the U.S.-Japan Alliance」（6月16日）

主催：東京大学政策ビジョン研究センター安全保障研究ユニット

会場：国際文化会館

映画上映会&トークイベント「Meet the Patels」(7月25日)

主催：駐日米国大使館

会場：国際文化会館

報告パネル「アジアリサーチネットワーク：アジア太平洋における米国の役割」
(10月19日)

主催：モーリーン・アンド・マイク・マンズフィールド財団、The Asian Institute
for Policy Studies、Perth USAsia Centre

会場：国際文化会館

Innovative City Forum (10月19日～20日)

主催：森記念財団都市戦略研究所、森美術館、アカデミーヒルズ

会場：虎ノ門ヒルズ

2016年度国際交流基金スーザン・ファー氏受賞記念講演会「日米関係の謎—50
年を振り返って—」(10月21日)

主催：国際交流基金

会場：国際文化会館

ミャンマー初のリベラルアーツカレッジ Parami University 創案者講演会 (11
月26日)

主催：特定非営利活動法人 Learning Across Borders

会場：国際文化会館

「国際社会におけるリスクの多様化と安全保障・外交の新次元」に係る五大学
会議の公開パネル「東アジアの安全保障問題について」(12月2日～3日)

主催：東京大学政策ビジョン研究センター安全保障研究ユニット

会場：国際文化会館

公開シンポジウム「アメリカのリベラルアーツ教育の将来」(2017年1月12日)

主催：グルー・バンクロフト基金

会場：国際文化会館

【後援】

第3回日中韓協力ダイアログ「日中韓パートナーシップの深化と発展を目指して～情報と経験の共有から相互信頼の醸成へ」(10月21日)

主催：国際経済交流財団、外交学院、東アジア財団

会場：国際文化会館

公益財団法人セゾン文化財団国際プロジェクト「東京／ニューヨーク往復書簡第三章」(2017年3月10日～11日)

主催：株式会社ティーファクトリー

会場：セゾン文化財団森下スタジオ

VII. 国際文化会館の運営

2016年度は、研究個室（宿泊施設／全44室）において、15,182名の宿泊客を迎えた。このうち、外国人の利用が63.1%と、国内外の国際交流関係者、学者、芸術家、文化、知識人の方々が集う施設としての特色を表している。

【会員向け宿泊キャンペーン（全会員対象）】

- 夏季宿泊優待券（有効期間：7月～8月）
- 冬季宿泊優待券（有効期間：12月～2017年2月）

別館に位置する会合施設（講堂／セミナー室）での利用者は35,108名、東館の会合施設（岩崎小彌太記念ホール／樺山松本ルーム）では、26,594名に利用された。

【宴会キャンペーン】

- サマー・パーティープラン（7月1日～9月30日）
- ウィンター&スプリング・パーティープラン
（12月1日～2017年3月31日）

料飲施設のティー・ラウンジ『ザ・ガーデン』は、64,965名に利用された。また、食堂のレストラン『SAKURA』は、16,736名の利用があった。

【ティー・ラウンジ『ザ・ガーデン』キャンペーン・イベント】

- お花見ちらし（3月19日～4月3日）
- お花見ローストビーフセット（3月19日～4月3日）
- ライスヌードルスープ（フォー）フェア（4月16日～5月31日）
- 懐かしの洋食レトロメニュー（6月1日～6月30日）
- 夏のカレーフェア（7月1日～8月31日）
- 秋のパスタフェア（9月1日～10月31日）
- どんぶりフェア（11月1日～12月18日）
- ローストチキンクリスマスセット（12月20日～12月25日）
- 年越し蕎麦（12月31日）
- おしるこ または お雑煮（2017年1月1日～3日）
- 冬のあつあつ料理フェア（2017年1月7日～2月28日）
- お花見ちらし（2017年3月18日～4月9日）
- 夜桜ステーキセット（2017年3月18日～4月9日）

【レストラン『SAKURA』キャンペーン・イベント】

- お花見弁当 (3月19日～4月3日)
- 夜桜会席 (3月26日～4月3日)
- 会員限定ワイン持込み無料キャンペーン (6月1日～3月31日)
- 懐かしのフレンチメニュー (7月1日～8月31日)
- 秋を楽しむフレンチディナー (10月1日～11月30日)
- クリスマス特別メニュー (12月20日～12月25日)
- おせち料理 (2017年1月1日～3日)
- 新春に贈るローストビーフディナー (2017年1月1日～3日)
- お花見ランチコース (2017年3月18日～4月9日)
- お花見弁当 (2017年3月18日～4月9日)
- 夜桜フレンチコース (2017年3月18日～4月9日)

以上の結果、別館を含む会合施設および料飲施設の総利用客数は、151,925名となった。また会員懇親の催しとして、以下を開催した。

- 観桜会 (3月31日、4月1日 参加者 224名)
- ガーデン・ビアパーティー (7月29日 参加者 203名)
- 国際文化会館会員晚餐会 特別ゲスト：松本幸四郎丈
(12月5日 参加者 99名)
- ワインパーティー (11月17日 参加者 145名)
- クリスマス晚餐会 (12月23日～25日 参加者 223名)
- 「国際文化会館の庭―作庭家 重森千青氏と歩く」
(2017年3月10日 参加者 20名)
- 観桜会 (2017年3月30日、3月31日 参加者 225名)

いずれの日も会員の皆様およびゲストの方々が集い、交歓のひとときをお楽しみいただいた。

サービス活動実績

研究個室

自 2016年 4月 1日

至 2017年 3月 31日

	2015年度	2016年度	増減	前年比
宿 泊 者 数	15,516	15,182	-334	97.8%
一日平均宿泊者数	42.5	41.6	-0.9	97.8%
外 国 人 比 率	64.9%	63.1%	-1.8%	97.2%
稼 働 率	81.7%	78.4%	-3.3%	96.0%
収 入 額	¥149,158,903	¥145,844,670	¥-3,314,233	97.8%
一日平均収入額	¥408,655	¥399,574	¥-9,080	97.8%

会議室・婚礼関連・料飲施設

自 2016年 4月 1日

至 2017年 3月 31日

		2015年度	2016年度	増減	前年比
セミナー室	収 入 額	¥66,235,992	¥67,656,873	¥1,420,881	102.1%
	客 数	34,068	35,108	1,040	103.1%
	客 単 価	¥1,944	¥1,927	¥-17	99.1%
会 議 室	収 入 額	¥199,276,482	¥210,480,086	¥11,203,604	105.6%
	客 数	27,862	26,594	-1,268	95.4%
	客 単 価	¥7,152	¥7,915	¥762	110.7%
婚礼手数料	収 入 額	¥144,063,466	¥116,948,170	¥-27,115,296	81.2%
	客 数	10,781	8,522	-2,259	79.0%
	客 単 価	¥13,363	¥13,723	¥360	102.7%
レストラン	収 入 額	¥101,114,986	¥102,603,265	¥1,488,279	101.5%
	客 数	16,320	16,736	416	102.5%
	客 単 価	¥6,196	¥6,131	¥-65	98.9%
ラウンジ	収 入 額	¥111,060,567	¥115,331,832	¥4,271,265	103.8%
	客 数	62,497	64,965	2,468	103.9%
	客 単 価	¥1,777	¥1,775	¥-2	99.9%
合 計	収 入 額	¥621,751,493	¥613,020,226	¥-8,731,267	98.6%
	客 数	151,528	151,925	397	100.3%
	客 単 価	¥4,103	¥4,035	¥-68	98.3%
一 日 平 均	収 入 額	¥1,703,429	¥1,679,507	¥-23,921	98.6%
	客 数	415	416	1	100.3%

付 属 明 細 書

2016年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

2017年5月

公益財団法人 国際文化会館